

期間限定！ 大画面で「MUSENAVI」を体感できます！



「手のひらサイズの学芸員」とも言える音声ガイドだが、しかしそのサイズの大きさから、「持ち歩いて鑑賞するのはちよつと」としり込みした方もいるだろう。

しかしスマートフォンアプリとして利用できる『Musenavi』ならば、おそらくそうした不便さを解消できるかもしれない。

「従来からの観光立国・文化発信のニーズに加え、インバウンド受入の増加により、日本人はもちろん、多言語で様々な来館者を呼び込み、情報提供したいといったニーズが急激に高まってきたことによります。このニーズにスマートフォンアプリであれば安価に幅広く対応できると

考えました」

『Musenavi』を開発したピールソフトウェア株式会社の営業本部副本部長である山本博昭さんは、ソフト開発の経緯をそう話す。確かに、訪日外国人数が増加している現在、美術館・博物館が一つの観光地となり得る点を鑑みると、多言語対応の容易なアプリケーションによる音声ガイドは重要だ。

その他『Musenavi』と音声ガイド機器の違い、その導入によって美術館・博物館が期待できる効果について、山本さんは「仕様にもよりますが」としつつ、次のように話す。

「施設のコスト負担が軽減される可能性があります。具体的に

用する側・利用を促す側にとっても利便性がよい。
「Musenaviの場合、来館者自身がスマートフォンを操作してガイドを聞いて頂くことを標準としつつ、位置情報による自動再生、ツアーガイドによる遠隔ガイド再生、貸出スマートフォン対応など、様々なシーンに対応した機能をご用意しています。

また、動画についてもアプリでの動画再生はもちろん、施設で上映する日本語動画に追従した多言語ガイドもアプリでご提供しています」
確かに「使い易いか否か」、あるいは「安価かどうか」という点は、道具をチョイスする際の大きなポイントとなる。「使い辛い」や「違う国の言葉だから」

という理由から音声ガイドを敬遠し、作品解説とのアクセスを絶つてしまひ、美術の鑑賞体験を狭めてしまうのは勿体無い。
『Musenavi』のように手軽なスマートフォンで、かつ多言語対応であれば、より充実した鑑賞の「おもてなし」ができるだろう。

は、館内案内業務、音声ガイド機器の貸出業務やメンテナンス業務などのコストが、来館者自身のスマートフォンを使用頂くことにより軽減されると思いません。また、対応言語を追加する場合も Musenavi の方が安価に済む可能性があります。さらに Musenavi の場合、利用データが蓄積されますので、このデータを活用した集客、マーケティング、サービス向上の企画・実施が可能になります。文化を広く濃く発信していくための新規集客、リピーター創出には、アプリ標準のプッシュ通知やお知らせ機能がこれらのお役に立てると思います」
ネット通販等では当たり前だが、しかし美術館・博物館における利用者の好みの把握は盲点であったかもしれない。

PEOPLE SOFTWARE ピープルソフトウェア株式会社

ミュージアム設備機器展出展
東京ビッグサイト
ブース No. 東3ホール 3E-15



Musenavi 公式サイト

導入事例：

- 佐久市考古遺物展示室（近日公開）
- 岡山県立美術館
- 鳥取砂丘 砂の美術館
- 京都伝統産業ふれあい館
- トヨタ博物館
- カップヌードルミュージアム 横浜
- オタフクソース Wood Egg お好み焼館/工場見学
- 招き猫ミュージアム

お問い合わせ

電話：0120-960-228 (086-426-5932)

メール：psales@pscsrcv.co.jp



昨年のブースの様子



営業本部副本部長の山本博昭さん